

1-3. 教育・講演会等

本プロジェクトにとっては、生物多様性とその保全に関して研究だけでなく教育活動も重要な課題である。そこで、奄美分室の活動の中で説明した教育活動以外に以下の活動を行った。

1-3-1. シンポジウム

鈴木英治（島嶼研）

令和3年3月6日（土）に初年度の活動をまとめるためにZoomを使ったオンラインシンポジウムを行った。コロナの流行により翻弄された1年であったが、その中でできる範囲の活動をどのように進めてきたかを、9名の講演者に語ってもらい、約70名の方がWebを通して参加した。

研究・国際担当の馬場昌範理事のあいさつに次いで、奄美が国立公園になる時に県や国が買い上げた地域を中心に開始した自然環境モニタリング活動について、農学部の高山耕二先生が現在の進行状況を説明した。2番目にアマミノクロウサギの個体数回復に伴い問題になりつつあるウサギによる柑橘類への食害を防ぐ対策に取り組んでいる農学部の高山耕二先生が、侵入防止対策について解説した。3番目に理工学研究科の上野大輔先生が、普段目に見えないが、海や川に生きている生物の中に生まれる寄生生物たちが多様性に富んでいることを説明した。4番目は法文学部の兼城糸絵先生が、学生たちと奄美に行き地域の古老などから、第二次世界大戦の頃に奄美がどのような状況であったかを聞き取っている活動の紹介をした。5番目は奄美分室が中心となって進めてきた「奄美群島島めぐり講演会」について、コロナ禍に対応して毎回様々な変更をしながら進めてきた状況を宋多情先生が説明した。

一旦休憩後に、法文学部が学生を中心として進めてきた活動の紹介に入った。6番目の中吉真仁さんは沖永良部島で地域の人と協力して進めている産業活性化活動について説明した、7番の永田大武さんは奄美の地域メディアを訪問して調査した結果を報告した。8番目に法文学部の小栗有子先生が、法文学部はどのようにしたら奄美の人たちに貢献できるかを考察した。最後に島嶼研の河合溪先生が今後の研究方針について説明した。これらの講演を基礎として鈴木英治の司会のもとに討議に入り、Webを通して議論を進めた。最後に松田忠大法文学部長が総括をして3時間半のシンポジウムを終了した。

令和4年3月6日には、2年間の活動をまとめ、第4期中期目標期間の活動を考えるためのシンポジウムを行う予定である。

コロナ禍の奄美群島で教育研究をどのように進めたか・進めるか

2021年3月6日（土）13:30～17:00 ※Zoom開催

講演題目 講演者

18:00	18:40	はじめに 馬場昌範 総務理事(研究・国際担当)
13:40	14:00	奄美大島におけるこれからの自然環境モニタリングを考える 兼城 糸(農学部)
14:00	14:20	電気害によるアマミノクロウサギの生息地への侵入防止は可能か? 高山耕二(農学部)・河合 溪(島嶼研)
14:20	14:40	海や川で生まれる寄生生物たちの多様性 上野大輔(理工学研究科)
14:40	15:00	シマの戦争を聞く 兼城糸絵(法文学部)・石田静子(法文学部)
15:00	15:20	奄美群島島めぐり講演会について 宋 多情 理事(島嶼研)
15:20	15:30	休憩
15:30	15:45	海田ゼミ2020年度沖永良部島を題材にした研究の概要について 小吉真仁(法文学部法経社会学部)
15:45	16:00	奄美の地域・文化に根拠したメディア 永田大武(法文学部人文学部)
16:00	16:20	奄美の人に必要とされる法文学部になるための課題を探る 小栗有子(法文学部法経社会学部)
16:20	16:40	環境変動に適応する島嶼研究の未来を考える 河合 溪(島嶼研)
16:40	16:55	総括討議 川倉 幹夫(島嶼研)
16:55	17:00	おわりにあたって 松田忠大(法文学部長)